

<b>名古屋丸の内ロータリークラブ</b> <b>Weekly Report</b>		承認 1995.3.28 会長 森田 正樹 幹事 成田 勝彦 事務局 名古屋市中区栄3-29-1 名古屋クレストンホテル 1007号
例会場 名古屋クレストンホテル TEL 052-264-8000 例会日時 木曜日 12:30 クラブ会報広報委員長 松尾雄二郎 HP <a href="http://rc.nagoya.seinan.org/">http://rc.nagoya.seinan.org/</a>		 2016-17年度RIテーマ 会長 ジョンF.ジャーム 人類に奉仕するロータリー
<b>森田正樹会長 年度目標</b>		<b>ロータリーに学び、参加し、楽しもう</b>

<b>第1040回例会</b>	<b>No. 40 平成29年 6月8日 (木)</b>
■ ローターソング	「我等の生業」「四つのテスト」
■ 出席報告	会員47名中24名出席
■ 出席率	55.82% 出席計算人数43名
■ 修正出席率	5月25日 95.35%
■ スピーカー	松尾雄二郎さん

**会長挨拶 森田正樹**

梅雨に入り少し涼しくなりました。最初の例会でロータリークラブはどうして出来たか、ポール ハリスが淋しかったから。という話をしたのですが、まさに四つのテストにあるように好意と友情を深めることが出来たのかなと思っています。今年、ロータリーの基本がいろいろと変化し、その大義は継続可能にするために自由度を高めたというものです。クラブとはお互いにある程度の犠牲を払って成り立つものなので、やはりちゃんと見直して、やるべきところは皆で協力してやる、ダメなことはダメ、ルールはキチンと守る、と終始していかないと成立しないと思います。ただの仲良しクラブでは継続できません。意義あることを行い、一年間過ごしていく、その中でみんなの友情を深めていくというのが大儀だと思います。これからも皆様の益々のご協力をお願い致します。

<b>ニコBOX</b>	
●本日は家族信託について松尾雄二郎さんよりお話を伺います。松尾さん、どうぞ宜しくお願い申し上げます。 <b>森田会長、成田幹事、小原、岩田、中野、田島、安藤、川原、水野、河原、山崎、矢野、宮崎、恵利、今村、西川、長谷川、渡邊(敬称略)</b>	
<b>加藤さん</b> 今月は私の誕生月です。お祝いを有難うございます。	
<b>松尾さん</b> 本日卓話をします。	
<b>本日合計 43,000円</b>	

**幹事報告 成田勝彦**

本日、次年度上半期会費の請求書を配布致しましたので宜しくお願いします。また、次年度のご案内ですが、10月19日に例年通り歌舞伎鑑賞をすることになりました。夜の部ですので、ご予約をお願いします。

**卓話**

**「家族信託について」**  
**家族信託普及協会会員 松尾雄二郎**



私は家族信託普及協会にて正会員をしています。民事信託を協会にて家族信託と言っているだけの事なのですが、2007年以降色々幅が拡がり、現在とても注目されているので、興味を持って聞いて頂けるのではないかと思います。今、こういう信託がはやっているのには理由があり、今まで色々あった制度、たとえば後見人制度などいろいろできそうですが実は手続きが面倒だったり、できないことが多かったりするのが背景にあります。何が一番面白いのかというと、相続の落とし穴に備えて自分で好きなように準備することができるということです。財産を自分の思い通りに管理して受益者に渡すことができますが、遺言ではこれはできません。社長である父が副社長である長男に毎年株を渡していたが、不幸にして長男が先に死亡してしまった場合、相続によって長男の嫁の關係に經營権が流失してしまうという問題が、家族信託では財産権と經營権を分けることが出来ます。株が嫁に移ってしまっても經營権は社長に残すことが可能です。まだまだ出来立ての協会ですが良い団体になってほしいなと思っています。

<b>例会のご案内</b> ◎6月15日(木)第1041回例会 退任挨拶 ◎6月22日(木)第1042回例会 例会変更 「会長幹事慰労夜間例会」 於 安江 18:30~
---

## 「四つのテスト その由来をひもとく」その②

ダレル・トンプソン

(米国カリフォルニア州モローベイ RC)

(初出 THE ROTARIAN 1999年10月号)

★4月16日ウィークリーからの続きです

### 今こそ必要なのは倫理的誠実さ

1930年代に誕生して以来、60年以上の歳月が過ぎ去ったこの現代社会では、ある人たちが批判するように、四つのテストは、その有効性を喪失してしまっているのでしょうか？ それとも、変化のテンポの速いこの時代においても、事業や専門職に携わる人たちの指針として機能するに足る洗練さを保持しているのでしょうか？

真実かどうか—真実は不変であり、時代を超越するものです。真実は正義なくしては存在し得ません。

みんなに公平か—顔を突き合わせてとは言わないまでも、腕を伸ばせば届くような所で、激しくやり合うビジネス手法に代わり公平さを取り入れたビジネスは、お互いの関係を傷つけるよりも、その関係向上に役立ってきました。

好意と友情を深めるか—人は生まれながらにして、他者と協力して生きていく存在であり愛情を示すことは生来備わっている本能です。

みんなのためになるかどうか—この項目は、食うか食われるかを原則とする無慈悲な競争を排除するものであり、それに代わって建設的で創造的な競争を導入するものです。

四つのテストは国家という枠を超えたものであり、国境や言葉の障壁を超越するものです。そこには、政治や独断や特定の信条は介在しません。一つの倫理規範としての存在以上である四つのテストは、いかなる形であれ、人生を成功に導くための要素を含み持っています。それは今日の社会でも有効性を保持し、かつ実効性のあるものなのです。

最終的なテストは、実際に行動することにあります。著名な心理学者であるウィリアム・ジェームズ(1842~1910年)は、「真実が意味するところの究極的なテストは、それが指示あるいは示唆する行動である」と、言っています。今日のロータリーの中核には、倫理的卓越性を使命とする四つのテストが存在します。人類は、共に繁栄することができるのです。現代のビジネスは、誠実かつ信頼のおけるものであり得るのです。人々は、お互いを信じ合うようになるものなのです。

1977年のサンフランシスコ国際大会で、米国の取引改善協会(不正広告の排除など商道德の改善を目指す実業家・生産者の団体)のジェームズ S.フィッシュ氏は、次のように語っています。「競争を原理とする企業経営システムが存続するためには、厳格な倫理規範という枠組みが必要です。実際のところ、資本主義制度の全体構造そのものが、信頼というものに大きく依存しています。つまり、ビジネスに携わるすべての人たちは、お互い同士

だけでなく、大衆や消費者や株主や従業員とも、公平かつ誠実に対応するという信頼関係に依存しているのです」。

現代社会が今いちばん必要としているものは倫理的誠実さであると言ってもいいでしょう。四つのテストは、人々が価値ある目標を追い求める際の指針として活用できます。その目標とは、友人を探し選び、その友人関係を維持すること、周りの人たちと友好関係を築くこと、幸福な家庭生活をつくりあげること、高い倫理的・道德的基準を設定し身につけること、自ら選択した事業や専門職で成功を収めること、より良き市民となり、次の世代にとっての良き手本となること、といったことです。

簡潔さの中に多くが語られ、感動的なまでに力強く、実のある成果を必ずもたらすこの四つのテストは、緊張と混乱と不確実性に満ちたこの世界のただ中に、清新で明るさにあふれた未来展望を与えてくれるのです。

## ハイライトよねやま 207号 (米山記念奨学会ニュース WEBより抜粋)

●理事會開催報告 来年の採用数は40人増の820人に6月6日に第17回理事會が開催され、全国から28人の理事と監事1人が出席しました。

主な議題として、2017学年度採用の件、2018学年度奨学生採用数と募集要項の件、2017年度の事業計画案および収支予算案の件、2017年度資産運用方針の件などが審議されました。すべての議案は原案通り承認され、50周年記念の特別事業費を含む収支予算、また、2018学年度の奨学生採用数は前年度比40人(枠)増の820人(枠)とすること、2018学年度も海外応募者対象奨学金の募集採用を行うことなどが決定しました。

●米山翁の思いを伝える植樹に奨学生らが参加

—青森RC—

「日本のロータリーの父」であり「奉仕の人」と呼ばれる米山梅吉翁は、晩年、三井報恩会を設立し、初代理事長として多くの社会貢献事業に奔走します。特に思いを寄せたのは、当時、社会から疎外されていたハンセン病の患者たちでした。自ら調達した見舞い品を携えて、米山翁は青森から沖縄まで、当時の療養所すべてを訪れたと伝えられています。青森市にある「国立療養所 松丘保養園」も、米山翁が三井報恩会を通じて多大な支援をしたハンセン病療養施設の一つ。青森RC(第2830地区)では米山翁の思いを語り継ぐと、3年前から同園内の緑化推進に協力し、植樹事業を始めました。6月3日に実施された第4回植樹活動には県内から約90人が参加。青森RC会員のほか、町内会有志や同地区ロータリーアクター、米山奨学生5人とその友人など、さまざまな世代・国籍の人が集い、ハナカイドウ、百日紅の木を園内に植樹し、昨年植えた樹木の周りの除草作業に汗を流しました。これが初めての奉仕活動という米山奨学生のシーズン、アピラーパーさん(タイ/2017-18/青森RC)は、「活動を通じて、いろいろな人と交流ができて本当に楽しかった。自分が植えた木がどのように成長しているか見たいので、来年もぜひ参加したい」と、語りました。感謝 in 熊本にぜひご参加ください。